

富谷市児童屋内遊戯施設整備 基本方針

2021（令和 3）年 6 月

富谷市

目次

はじめに	1
1 富谷市の現状	2
1.1 富谷市の人口と子ども人口の推移	2
1.2 富谷市の子ども人口の推計	2
1.3 富谷市の人口ビジョンと子育て施策の重要性	3
1.4 子どもにやさしいまちづくり宣言	5
1.5 イクボス宣言	5
1.6 SDGs	6
1.7 ウィズコロナ・アフターコロナ	6
2 児童屋内遊戯施設整備検討の背景	8
2.1 富谷市の子育て環境と子どもの発育・発達の課題	8
2.2 社会情勢から見た課題	10
2.3 施設整備上の課題	10
3 アンケート結果から見る児童屋内遊戯施設への期待	12
3.1 富谷市児童屋内遊戯施設に関するアンケート調査	12
3.2 アンケート調査の集計結果	13
3.3 アンケート調査の総評	19
4 類似先行事例の調査	20
4.1 先行事例の概要	21
4.2 先行事例から見る近年の施設整備の傾向	26
5 児童屋内遊戯施設の整備テーマとコンセプト	28
5.1 整備テーマ	28
5.2 整備コンセプト	28
6 児童屋内遊戯施設への導入機能	29

はじめに

富谷市は、平成 28 年 10 月 10 日に市制移行したことにより、富谷町から富谷市となった。全国的に人口減少傾向が進む中、富谷市は、豊かな自然に恵まれた利便で潤いのある生活環境により住宅需要は依然高く推移し、今後とも人口は増加していくものと予測されている。

富谷市の人口増加の傾向として特徴的なのは、長期にわたり子育て世代の転入者が多いことであり、これに伴い 0 歳から 14 歳までの子どもの数も大きく転入超過していることにある。

こうした背景を受け、富谷市では富谷市総合計画において“住みたくなるまち日本一”を目標に掲げ、“教育と子育て環境を誇るまち”を基本方針の大きな柱に掲げ、平成 29 年に開所した「とみや子育て支援センター『とみここ』」における事業をはじめ、母子保健事業や子育て支援の情報発信などの子育て支援事業の展開により、妊娠期から育児期にわたる切れ目ない支援を鋭意実施しているなど、子育て支援に関する施策は他自治体より高い水準を維持している。

子どもたちが伸び伸びと遊べる環境としては、大亀山森林公園などの屋外遊戯施設の充実に努めてきたが、子どもたちが雨天や冬季にも伸び伸びと遊べる施設が無いことから、子育て世代の市民から屋内遊戯施設の整備を求める声が高まっている。

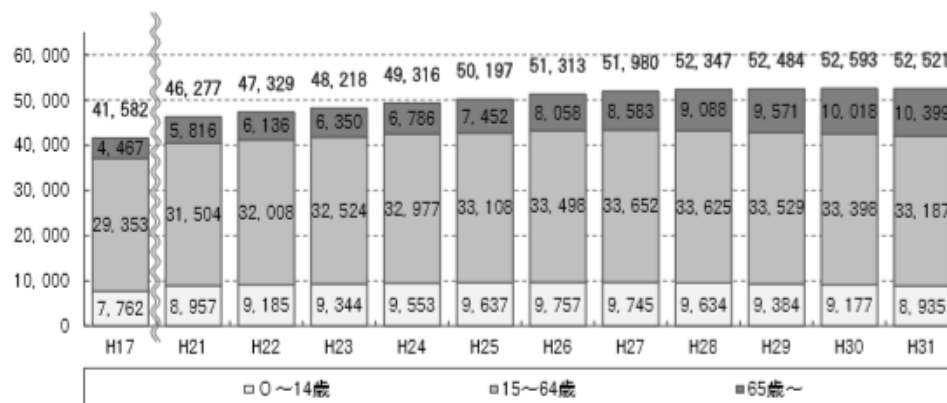
本計画は、富谷市が目指す“教育と子育て環境を誇るまち”をより一層充実し、子育て世代から更に住みたくなるまちとして選ばれ続ける地域づくりを進めいくために、子育て世代や子どもたちのニーズに的確に応える児童屋内遊戯施設の整備に向けた基本構想として取りまとめたものであり、児童屋内遊戯施設に関する市民アンケート調査の結果を踏まえながら、児童屋内遊戯施設の目指す方向性と導入すべき機能等について検討したものである。

1 富谷市の現状

1.1 富谷市の人口と子ども人口の推移

富谷市の人口は近年増加を続け、平成 30 年に 52,593 人となったが、平成 31（令和元）年にわずかに減少に転じた。老年人口（65 歳以上）は増加が続いている一方、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は平成 27 年を、年少人口（0 歳～14 歳）は平成 26 年をピークに、以降は減少傾向にある。

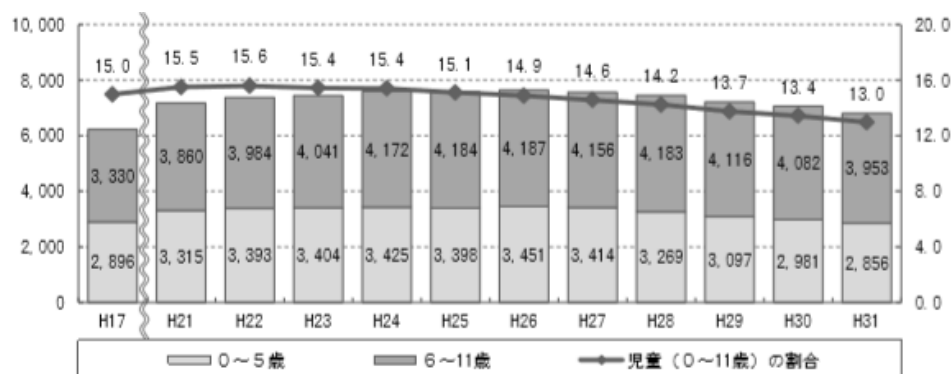
【 3 階級別人口の推移 】



出典：富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（令和 2 年 3 月）

総人口に対する児童（0 歳～11 歳）の割合は、平成 22 年の 15.6%をピークに低下が続き、平成 31 年（令和元年）3 月末には 13.0%となっている。

【 子ども人口の推移 】



※児童（0～11歳）の割合は総人口に占める児童の割合

出典：富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（令和 2 年 3 月）

1.2 富谷市の子ども人口の推計

富谷市の子ども人口の推計については、0 歳～5 歳では平成 29 年の 3,097 人から令和 6 年には 2,481 人と 616 人（19.9%）の減少が予測されている。また、6 歳～11 歳においても平成 29 年の 4,116 人から令和 6 年には 3,352 人と 764 人（18.6%）の減少が予測されている。

【 子ども人口の推移と推計 】

単位：人

	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和 6年
0～11歳	7,213	7,063	6,809	6,581	6,563	6,266	6,051	5,833
0歳	357	419	377	364	370	361	353	347
1歳	472	398	429	401	403	393	383	375
2歳	515	495	426	455	442	427	417	407
3歳	552	517	510	436	482	452	437	427
4歳	576	569	529	525	465	496	465	450
5歳	625	583	585	539	552	475	506	475
0～5歳	3,097	2,981	2,856	2,720	2,714	2,604	2,561	2,481
6歳	638	632	581	591	561	558	480	511
7歳	721	645	636	585	611	565	562	483
8歳	656	729	640	636	601	611	565	562
9歳	693	657	734	642	654	603	613	567
10歳	722	697	664	740	663	659	608	618
11歳	686	722	698	667	759	666	662	611
6～11歳	4,116	4,082	3,953	3,861	3,849	3,662	3,490	3,352

資料：平成29年～平成31年は、住民基本台帳（各年3月31日）

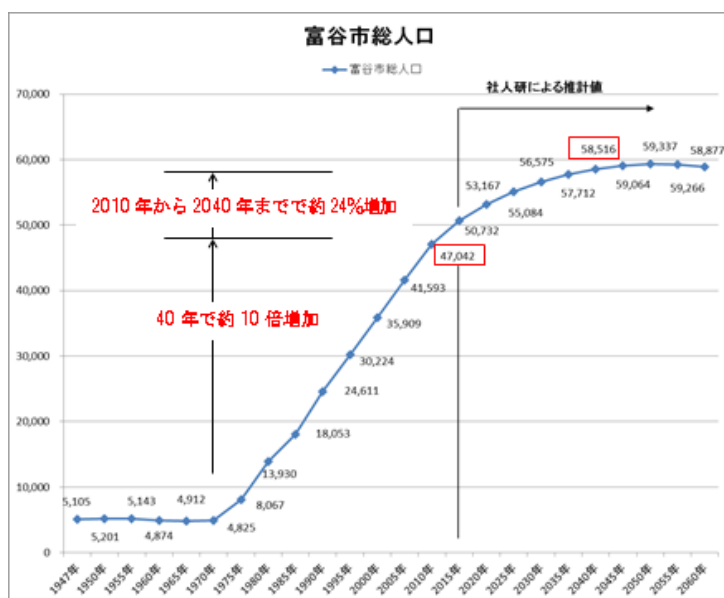
令和2年～令和6年は、実績値を基にしたセンサス変率法による推計（各年3月31日）

出典：富谷市第二期子ども・子育て支援事業計画（令和2年3月）

1.3 富谷市の人口ビジョンと子育て施策の重要性

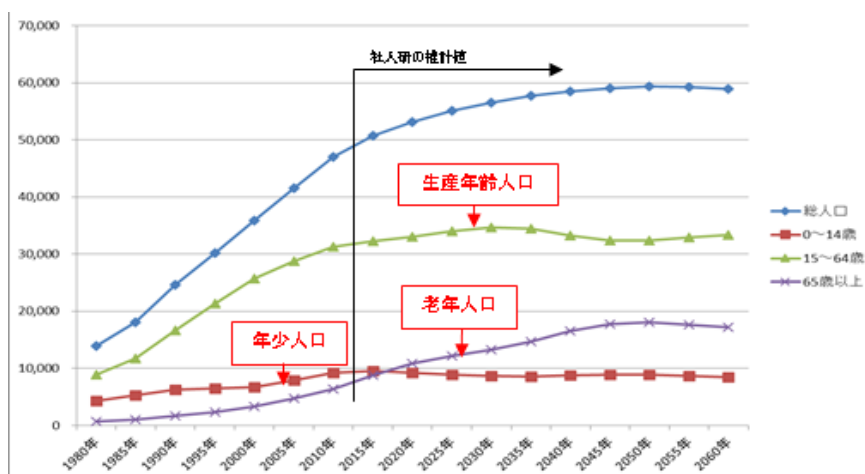
平成27年11月に策定された「富谷市人口ビジョン」では、富谷市は今後も人口増加が続くものと予測されている。増加傾向にあった年少人口（14歳以下）は2015年以降減少に転じたものの、ほぼ横ばいの9,000人前後で今後も推移していくと予測されている。減少傾向に転じたとはいえ、現状において総人口に対する年少人口の割合は東北では最も高くなっており、9,000人程度での今後の推移は、他の自治体と比較して年少人口の割合は相当程度高いレベルで維持されていくこととなる。

【 富谷市の人口の推移と推計 】



出典：富谷市人口ビジョン（平成27年11月）

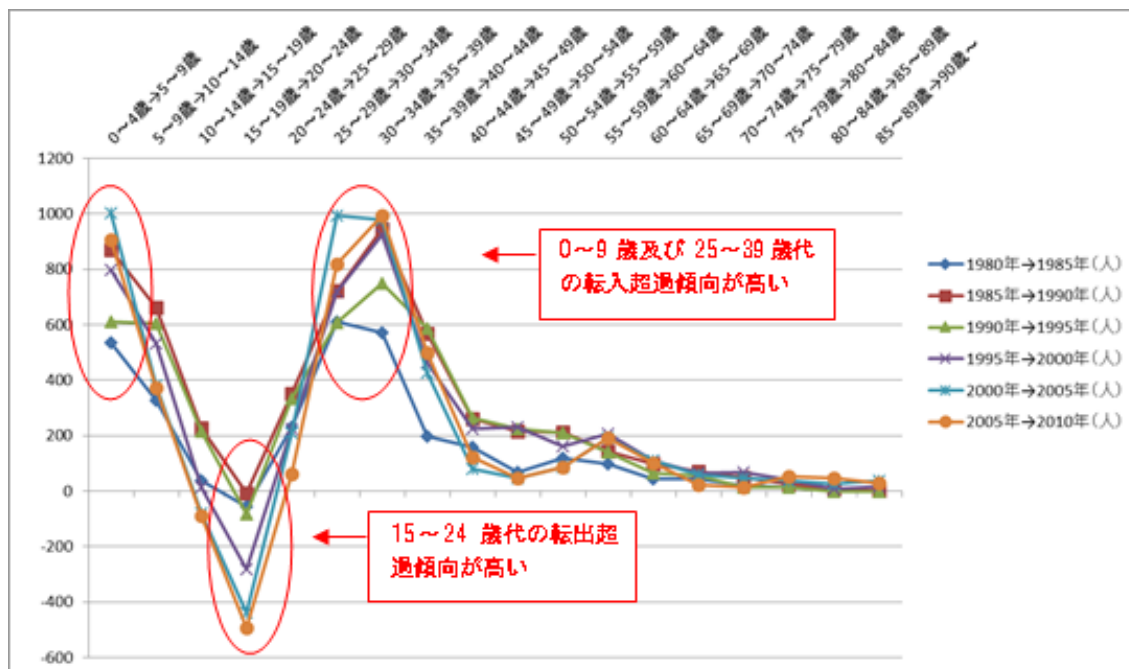
【 年齢3区分別人口の推移と推計 】



出典：富谷市人口ビジョン（平成 27 年 11 月）

富谷市の人口増加の特徴は、一貫して出生数が死亡数を上回る「自然増」となっていることのほか、転入数が転出数を大きく上回る一貫した転入超過（「社会増」）が続いていることが見て取れ、特に子育て世代の転入超過が顕著であることから、これに伴う年少人口の転入超過数も高くなっている傾向が窺える。

【 年齢階級別人口移動の状況 】



出典：富谷市人口ビジョン（平成 27 年 11 月）

こうした人口推移の傾向を踏まえ、平成 27 年 12 月に策定した「富谷市地方創生総合戦略」では、“未来を担う子どもたちを育てる環境のさらなる充実”を基本目標に掲げ、富谷市が目指す“住みたくな

るまち日本一”に向けた子育てしやすい環境づくりのために、ハード・ソフトの両面から、全国トップレベルを目指した取り組みを進めることとしている。

1.4 子どもにやさしいまちづくり宣言

富谷市は、日本ユニセフ協会から全国5自治体のひとつとして、2018年10月29日に「子どもにやさしいまちづくり事業検証作業モデル自治体」の委嘱を受けた。

これを受けて、「子どもの権利条約」に基づき、2020年に、国連が定める「世界子どもの日」である11月20日に「富谷市子どもにやさしいまちづくり」の推進を宣言した。

「子どもにやさしいまち」とは、子どもが社会の一員として、自分たちが暮らすまちのあり方に関して意見が言えたり、意見を聞いてもらえたりするまちであり、また、安心して安全な環境で育ち、教育・健康などの基礎的社会サービスがあり、遊んだり、勉強したりしながら育っていく環境のあるまちのことであり、富谷市はこうした環境づくりのために「富谷市子どもにやさしいまちづくり」を宣言し、以下の5つの柱の実現に向けた取り組みを積極的に推進していくこととしている。

1. 子どもが大切に育てられ健やかに成長できるまち
2. 子どもが安心安全に暮らすことができるまち
3. 子どもが友だちと交流し、楽しく遊び学べるまち
4. 子どもが地域社会の絆の中で役割を持ち、生き活きと参加できるまち
5. 子どもの意見を聴き、まちづくりに活かすまち

1.5 イクボス宣言

富谷市では、市職員の子どもたちの健やかな育成を目指し、お互い支え合いながら次世代育成や女性活躍の推進を図るため、平成29年8月に「富谷市特定事業主行動計画」を改訂し、取り組みを進めてきたが、子育てや介護等の時間的な制約を持つ職員が多い状態が続いていたことから、平成30年5月11日に、市長をはじめとした49名の管理職員等が職員のワーク・ライフ・バランスを推奨し、健康で生き生きと仕事のできる環境づくりを積極的に行っていくため、県内の単独自治体では初の「イクボス宣言」を行っている。

イクボスとは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら組織の業績も結果も出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことのできる上司（経営者・管理者）のことを言う。

1.6 SDGs

2015 年に国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）は、2030 年を目標年度とした、「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するための 17 のゴール、169 のターゲットで構成された世界の共通目標である。

SDGs では、経済、社会、環境のバランスの取れた持続可能な開発を目指しており、下図の「ウェディングケーキモデル」は、17 のゴールを「経済」「社会」「環境」の 3 層に分類し、可視化したものとなっている。土台には人々が暮らす「環境」があり、その上に社会活動が成り立っている。社会活動が健全であれば、頂点の経済活動も活発化していくということが示されているものである。

富谷市が富谷市総合計画基本構想に掲げた将来像「住みたくなるまち日本一」を実現するための 4 つの基本方針は、市民や事業者、行政などの関係者が共に、「活かす」「動く」「育む」「つなぐ」「守る」「誇る」といった 6 つの基本理念に基づき、まちづくりに取り組むことによって実現される目標であり、これらの取組が、SDGs 達成に向けた取組に貢献することとなる。

したがって、4 つの基本方針の 1 つである“教育と子育て環境を誇るまち”を実現するための施策の推進は、「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するという世界の共通目標を実現するための具体的方策として進められていくこととなる。

【 SDGs の目標を実現するための 17 のゴールとウェディングケーキモデル 】



1.7 ウィズコロナ・アフターコロナ

令和 2 年度以降猛威を振るい続ける新型コロナウイルス感染症の蔓延は、将来的なウイルス感染症対策も見据えながら「新たな生活様式・新たな事業形態」への転換を迫る機会となった。

新型コロナウイルス蔓延の拡大基調から、全国各地で「緊急事態宣言」或いは「蔓延防止等重点措置」が発令され、外出規制を中心に飲食同席の場での人数制限やソーシャルディスタンスの確保、3密（密集・密閉・密接）の恐れのあるイベントその他の事業活動制限等が施され、子どもたちだけでなく大人も含めてステイホームを強いられることとなった。

家族が自宅で一緒に居られる時間は増えたものの、外出できず精神的に鬱積する傾向が強まり、特に子どもたちにとって体を動かして遊べる環境が無くなってしまった閉塞感は相当なものとなった。

地球規模で新型コロナウイルス・ワクチンが普及し始めた令和3年以降は、新たな新型ウイルスとの闘いを続けながらも、ウィズコロナの新たな生活様式による活動の再開に期待が持たれている。

行動制限等で鬱積していた子どもたちに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた、安全で安心して遊べる新たな環境を提供していくことが求められている。

2 児童屋内遊戯施設整備検討の背景

富谷市は、子育て世代の転入者が多いこともあり、子どもの数は増え続ける傾向を続けてきたが、近年は子どもの数は減少する傾向にある。減少傾向に転じてはいるが、例年、子育て世代の大きな転入超過に支えられ、子どもの転入超過も大きな数値で推移してきており、富谷市は総人口に対する年少人口の割合が東北では最も高い自治体となっており、富谷市人口ビジョンでは、今後も9,000人程度と他の自治体より高い割合を維持しながら年少人口は推移すると予測されている。

そうした富谷市の大きな割合を占める子育て世代や子どもたちからは、雨天や冬季においても伸び伸びと安心して遊べる屋内の遊び場を求める声が高まっており、児童屋内遊戯施設に関するアンケート調査を子育て家庭や児童に対して実施した。

アンケート調査結果では、子育て世代からも子どもたちからも期待する声が高い結果が得られ、アンケート調査結果を基に児童屋内遊戯施設のあり方や導入機能等について検討を行った。

2.1 富谷市の子育て環境と子どもの発育・発達の課題

富谷市総合計画では、まちづくりの将来像として「住みたくなるまち日本一」を目指すものとし、実現のための基本方針の1つに『教育と子育て環境を誇るまち！』を掲げている。

その施策として下記の施策を推進することとしており、児童屋内遊戯施設整備の検討にあたっては十分に配慮するものとする。

目指す方向性

基本目標	創造性豊かな教育環境のまちを創る
施策目標	豊かな心と健やかな身体を育む環境づくり
施策方針	心身ともに健やかで豊かな人間性を育む教育を推進する 学校、家庭、地域が連携し、子どもを守り育てる体制を構築する

基本目標	あらゆる世代が生きがいを感じて暮らせるまちを創る
施策目標	生涯にわたって創造性や個性が生きるまちづくり
施策方針	市民の創造性や心豊かな人間性を育むための生涯教育環境の整備に努める あらゆる世代の多様なニーズに的確に応じた学習機会を充実する

基本目標	地域で子育てを支えるまちを創る
施策目標	“とみやっ子”をみんなで育む環境づくり
施策方針	子育て世代から好まれる環境を創出するため、安心感に包まれる子育て支援サービスを提供 子どもたち自身が安心して過ごせる環境づくりや、子どもの育成を支援する制度の充実を図る

1) 幼児や小学生が「からだを動かして楽しめる環境」

富谷市総合計画が目標に掲げる『“とみやっ子”をみんなで育む環境づくり』の最重点プロジェクトに位置付けられた、「とみや子育て支援センター「とみここ」の整備運営」や「身近な地域での子育てサロン等親子で集える場の整備充実」は鋭意進められ、乳幼児を抱える保護者が安心して過ごせる環境整備は比較的充足度が高まりつつある。

また、小学生高学年は、富谷市総合計画が目標に掲げる『躍動感あふれる動きに満ちたまちづくり』の施策に位置付けられた「スポーツ活動を促す機会の提供・支援」が進められ、スポーツ少年団活動等で、思いっきりからだを動かして健康的に過ごす環境が充実しつつある。

一方、上記環境の充実に対して、小学生低学年や入学前幼児等を抱える家庭からは、子どもたちが主体的に遊べ、安らぎある子どもの生活の場を求める声が高く、こうした小学生や幼児が、身近で気兼ねなく遊びが楽しめる環境の整備が求められる。

2) 幼児や小学生を抱える「保護者の利便性と安らぐ環境」

子育てに関する悩みや育児不安等は、乳幼児を抱える保護者に限らず、子育て期間中はずっと続くものであり、小学生や幼児を抱える保護者も、日常的に気兼ねなく、安全に安心して子どもたちと遊び、他の保護者たちと子育て相談や交流活動が楽しめる身近な環境の創出が必要であると考えられる。

3) 幼児や小学生が「より想像力を掻き立てられる環境」

富谷市総合計画に基づく『生涯にわたって創造性や個性が活きるまちづくり』が進められ、生涯学習の拠点となる「市民図書館」の整備計画も最終段階まで進められている。

また、青壮年の生涯学習環境や高齢者の生涯学習環境が整いつつある中で、幼児の知育環境や、子どもが創造性に富み、心豊かな人間性を備えていくための、遊びから創造性を育む教育環境の充実も求められている。

4) 乳幼児の「発育・発達状況に応じた遊びができる環境」

とみや子育て支援センター「とみここ」や、身近な地域での「子育てサロン」等、親子で集える場の充実が進められており、乳幼児を抱える保護者が安心して過ごせる環境整備は比較的充足度を高めつつある。

今後はさらに、乳児や幼児などの子どもの発育・発達の状況に応じて安心して遊べる環境を創出していくことが望まれる。

2.2 社会情勢から見た課題

1) 子どもたちや保護者が「遊びや子育ての豊かな時間を平等に享受できる環境」

2030年までの国際目標として世界各地で認知され、取り組みが進められている「SDGs」の考え方の根底にある目標に「平等」の理念がある。

格差や差別を無くし、あらゆる人たちが平等に豊かさを感じられる社会を目指すため、子どもたちや子育て世代の保護者たちも、遊びや学び、安らぎの機会を平等に享受できるよう、誰もが施設利用への負担を感じることなく、気軽に利用できる環境の創出が求められる。

2) 新型コロナウイルス感染症対策が徹底された「安全・安心して利用できる環境」

2020年に入り、世界中で「新型コロナウイルス」の蔓延による社会不安が広がる中、日本でも外出自粛要請や飲食店での営業時間短縮要請、リモートワーク・リモート会議の推奨等が行われ、身近な社会にこれまでにない閉塞感が広がっている。

日常生活においては、密集・密閉・密接の「3つの密」を避ける活動が奨励されるとともに、検温やマスク着用の日常化、こまめな手洗い・うがいの実践、触れたものの徹底消毒、大声を出さない活動の奨励をはじめとする新たな生活様式が確立しつつあり、また、ソーシャルディスタンスの確保や換気の徹底など、事業活動にも大きな影響を与えつつある。

新型コロナウイルス感染症が終息段階に向かったとしても、今後の危機管理に備えて、この新たな生活様式や事業活動は続いていくものと想定されるため、今後は、「ウィズコロナ（新型コロナウイルスとの共生）」の時代の観点の下、子どもたちの遊び方や施設形態・運営のあり方等は、国から発出される新型コロナウイルス感染症対策の通知等をもとに、児童健全育成推進財団が取りまとめた「児童館のための新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に即した施設環境の創出が求められる。

2.3 施設整備上の課題

1) 施設整備の効率性とコスト縮減の必要性

現在富谷市では、富谷市総合計画に掲げた重点プロジェクトである「富谷市民図書館」及び「富谷スイーツステーション」の事業化が同時進行しており、富谷スイーツステーション基本計画ではそうした事情を踏まえ、公共施設として各施設が備えるべき駐車場、トイレ、休憩スペース、エントランスホール、「交流・集いのスペース」「施設管理運営スペース」等の空間を合理的に共有し、施設整備効率を効果的に高める形で市民図書館とスイーツステーションの「複合施設化」を計画している。

こうした背景から、児童屋内遊戯施設についても施設整備や管理運営に関わる効率性に留意し、コスト縮減を図っていくことが求められる。

2) 施設利用者の多様性創出に配慮

先行して供用している他の自治体の事例を見ると、子どもの遊びが主目的であるとしても、子育て支援施策の一環としてカフェなどの交流空間を導入し、保護者の方々もゆったりと時間を過ごす配慮がなされている。

そうした機能も公共空間の効率化に向けた検討が必要であるとともに、子どもも保護者もゆったりと遊んで過ごすだけでなく、スイーツステーション基本計画が目指した方向性のように、効率的・効果的に多様な時間の使い方を提供していく方向性も検討することが求められる。

3) 事業地選定への配慮

市内に立地する子育て支援施設の立地場所や機能性、施設利用者の利便性等に十分配慮する必要があるが、コスト縮減や多様性の創出に向けた複合施設化の可能性を検討していく過程の中で、その他複合する施設に求められる環境等とも調整しながら、立地適地について検討していくものとする。

3 アンケート結果から見る児童屋内遊戯施設への期待

3.1 富谷市児童屋内遊戯施設に関するアンケート調査

目 的

市民図書館、スイーツステーション、児童屋内遊戯施設を複合施設として整備する方針が令和2年3月に示され、「富谷市民図書館等複合施設整備基本方針」を策定することになったことを受け、市民のニーズを把握する必要があることから、「児童屋内遊戯施設に関するアンケート調査」を実施したものの。

概 要

実施主体：富谷市保健福祉部 子育て支援課

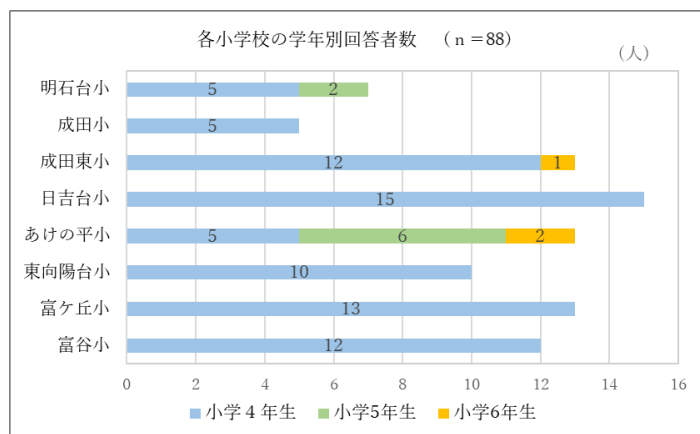
実施期間：令和2年7月1日～令和2年7月15日

調査対象	配布場所	配布・回収	配布数	回収数	回収率
小学4年生～6年生の児童	児童クラブ	直接	121	88	72.7%
0歳児～3歳児のいる家庭の保護者	乳幼児健診	直接	135	122	90.4%
4歳児～5歳児のいる家庭の保護者	公立保育所	直接	116	88	75.9%
小学1年生～3年生の児童の保護者	児童クラブ (富谷・富ヶ丘・明石台・成田東小学校)	直接	271	206	76.0%
計			643	504	78.4%

3.2 アンケート調査の集計結果

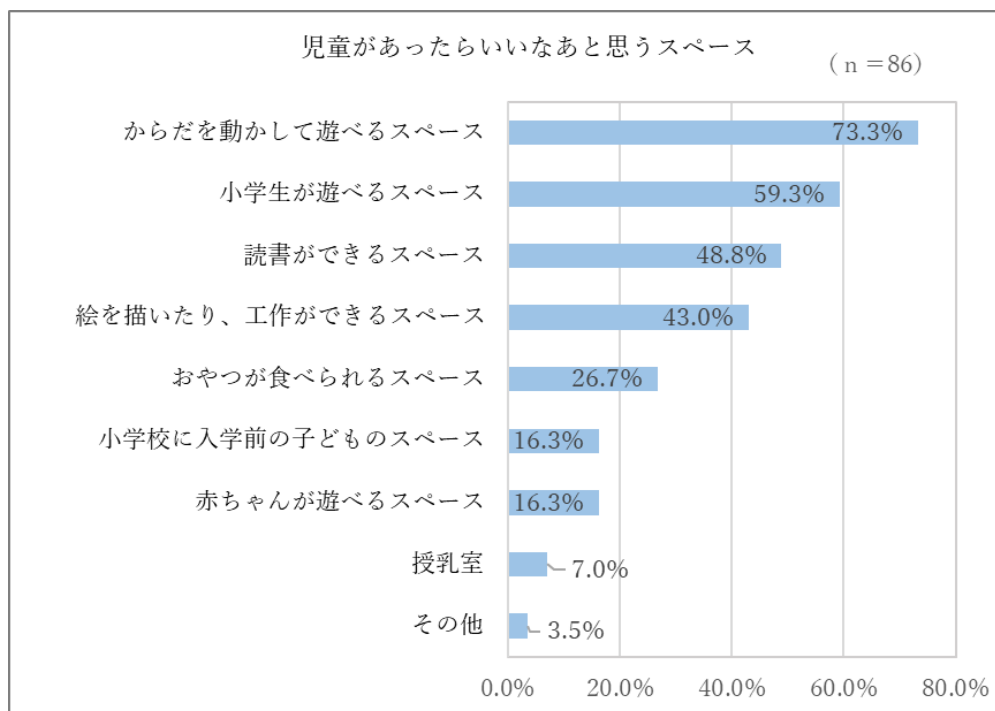
富谷市こどもの遊び場アンケート【小学4年生～6年生の児童】

問1 ・問2 あなたの通う小学校・あなたの学年を教えてください。（あてはまる番号1つに○）



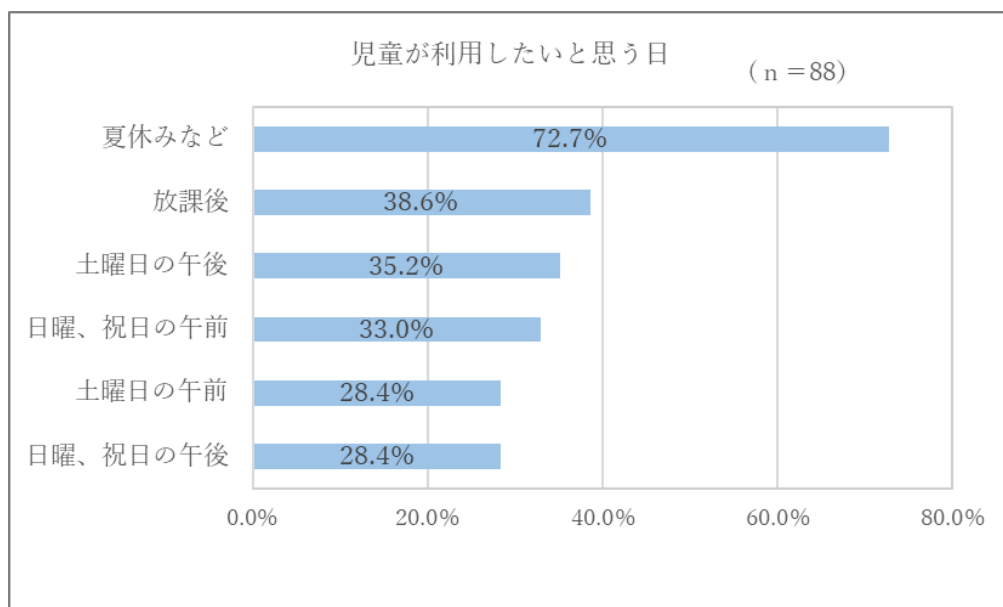
小学校高学年の回答は、4年生の回答率が圧倒的に高い傾向を示している。

問3 子ども達が遊べる建物にあるといいと思うものはどれですか。（あてはまる番号3つに○）



「からだを動かして遊べるスペース」が最も多く、「小学生が遊べるスペース」「読書ができるスペース」「絵を描いたり工作ができるスペース」と続いている。

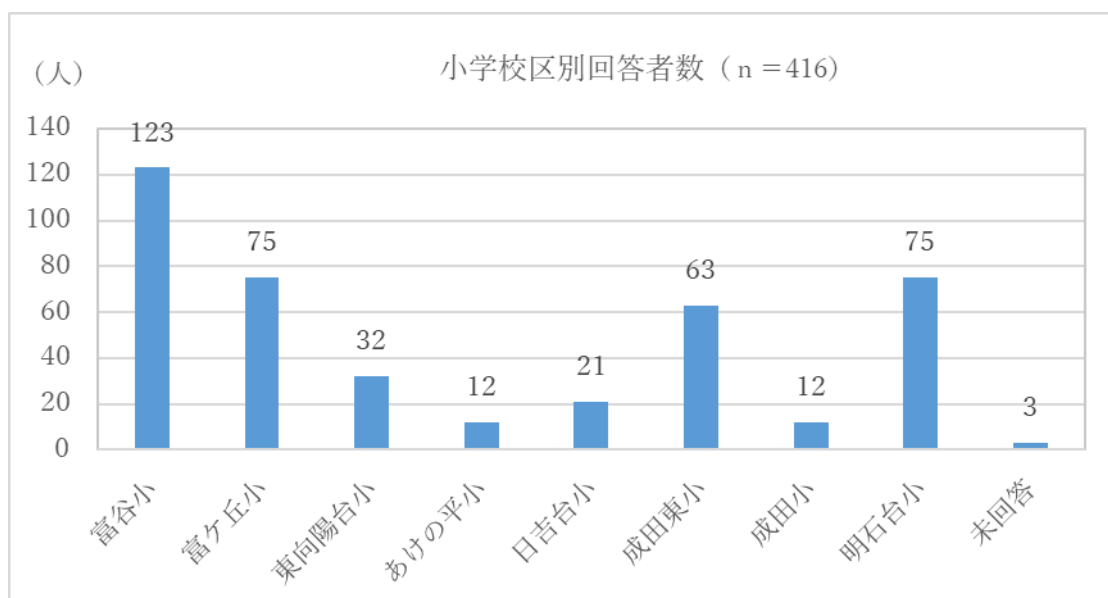
問 4 子どもの遊べる建物にいつ遊びに行きたいですか。（あてはまる番号 3 つに○）



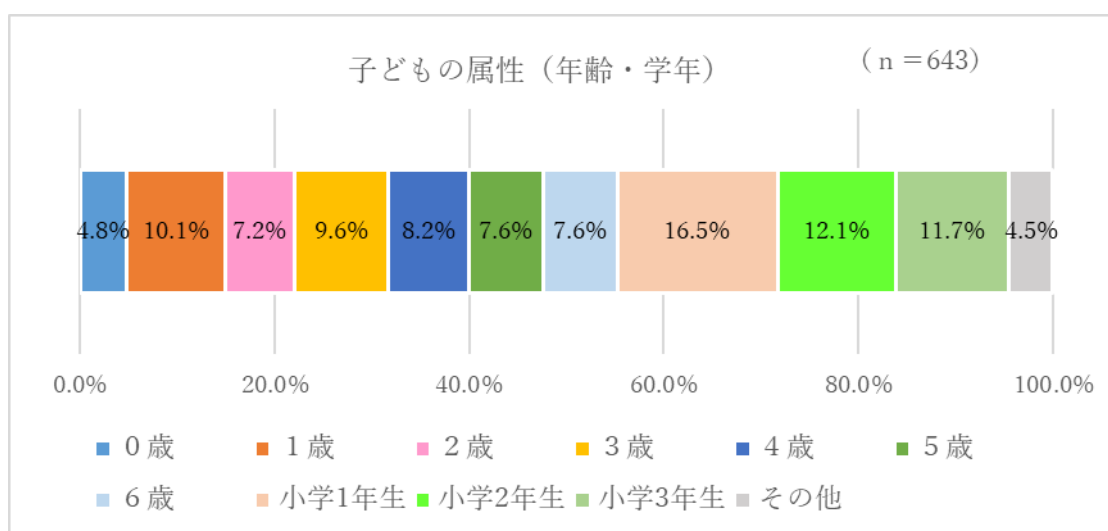
夏休みなどの長期休暇中の利用を望む声が最も多いが、放課後や週末の半日を使った利用（日常的利用）も比較的多い傾向が見られる。

富谷市児童屋内遊戯施設アンケート【0歳～小学3年生の保護者】

問1 あなたのお住まいの地区を小学校区でお答えください。（あてはまる番号1つに○）



問2 お子さんの年齢や学年についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

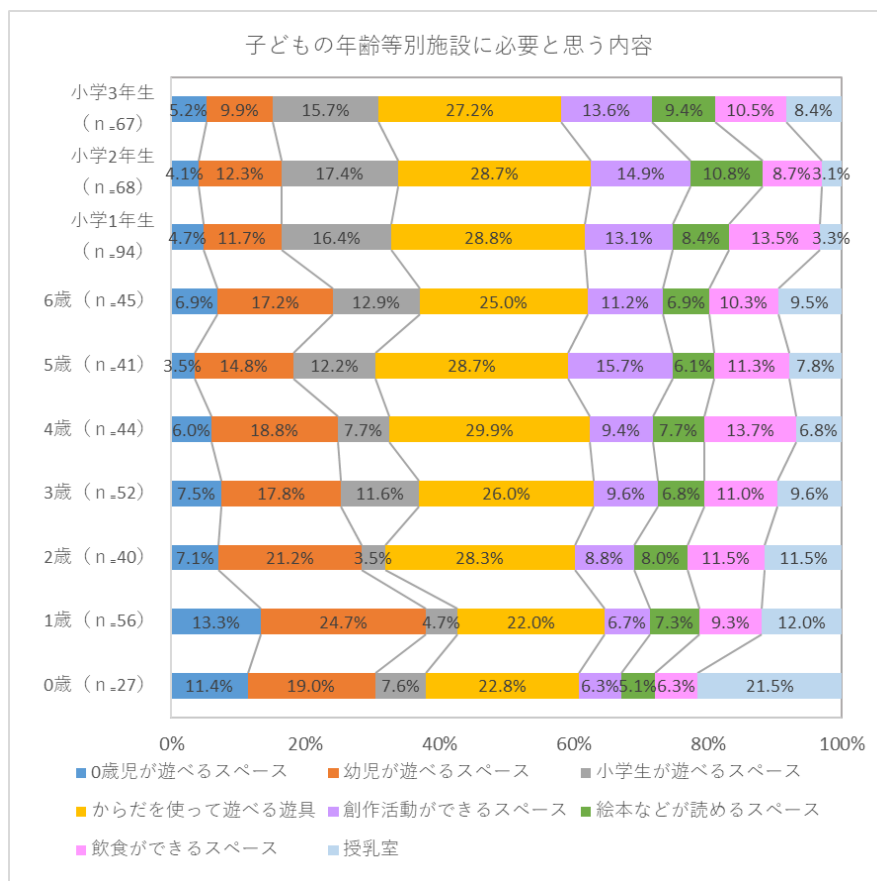
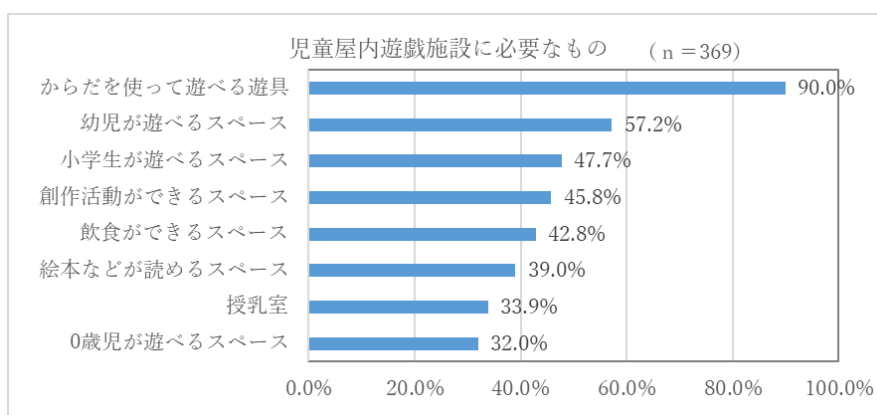


問3 このアンケート調査に回答いただいている方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまる番号1つに○）

	母	父	祖母	未回答	計
回答者数	388 人	26 人	1 人	1 人	416 人

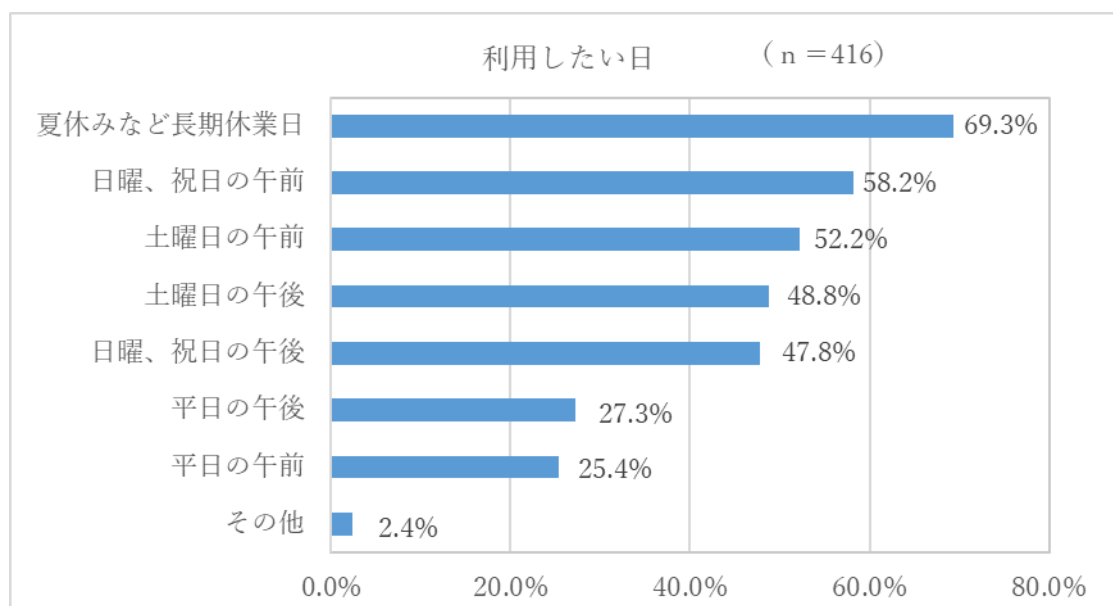
若干地域的な偏りは見られるとともに、小学生の子を持つ保護者からの回答が多かった傾向が見られるが、ある程度年齢的に満遍なく回答が得られている。

問4 児童屋内遊戯施設に必要であると思うものについてお答えください。（あてはまる番号3つに○）



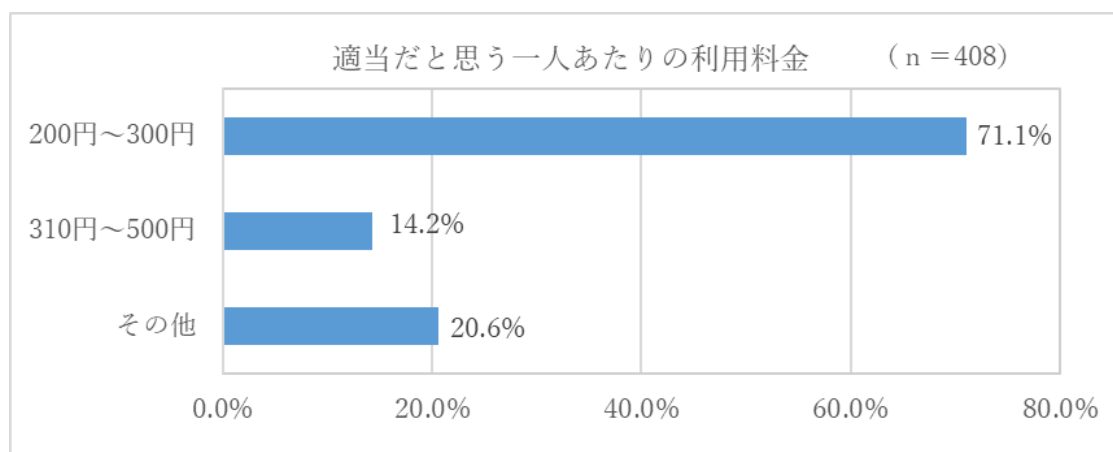
子どもの年齢に応じた回答傾向として、「からだを使う」が一律多い傾向がうかがえる。

問 5 児童屋内遊戯施設は、いつ利用したいですか。（あてはまる番号すべてに○）



児童への直接アンケートの際と同様、夏休みなどの長期休暇中の利用を望む声が最も多いが、日常的な利用を求める声も高い。

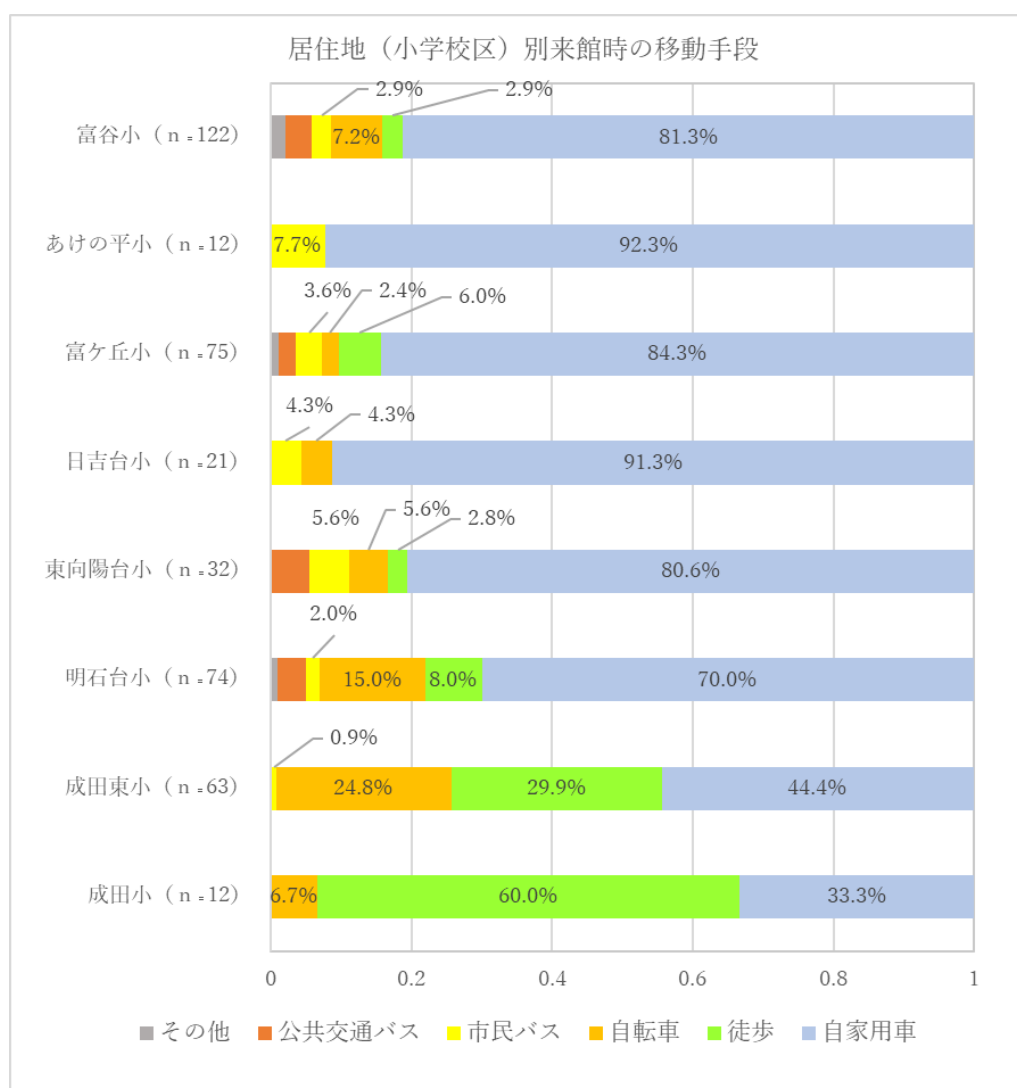
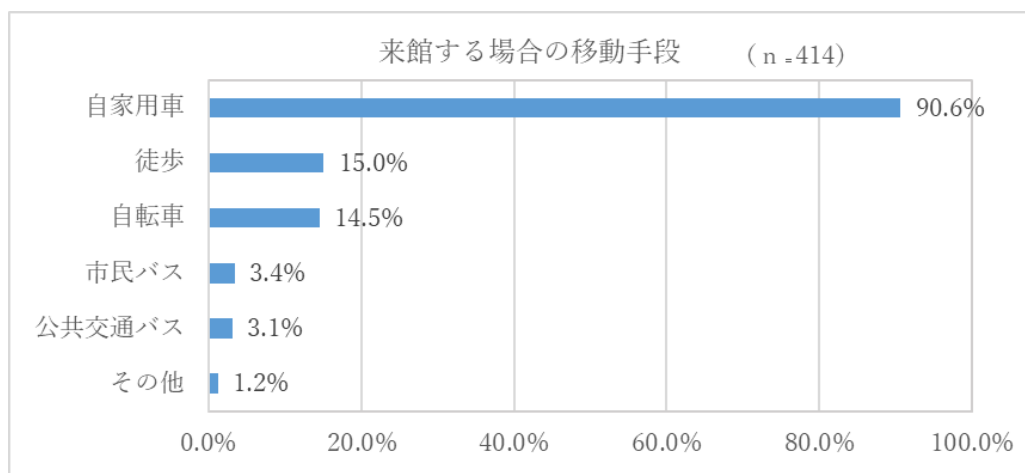
問 6 児童屋内遊戯施設の一人あたりの利用料金はいくら位が適当であると思いますか。（あてはまる番号 1 つに○）



その他：無料（33 人）、無料～100 円（10 人）、市民無料（7 人）、グレードによる
一家族 500 円、月・年フリーパス、年齢毎の料金体系、時間制・追加料金、市民割引

「200 円～300 円」が圧倒的に多い。「500 円程度まで」と答える人も 14.2%いる一方、「無料」や「100 円程度」、「年間パス」などの回答も多く見られる。

問 7 児童屋内遊戯施設は、成田公民館付近に整備することを検討していますが、来館する場合の移動手段についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）



施設近隣の「成田地区」に居住する方の「徒歩」や「自転車」が比較的多い以外は、圧倒的に「自家用車」の利用を想定している人が多い。

自由意見

- ①絵本が読めるスペースは図書館でいいのでは？飲食ができるスペースは水分補給程度なら必要。
- ②山形県天童市のげんキッズが理想です。室内と室外それぞれで遊べます。
- ③「いわて子どもの森」のような施設ができると嬉しいです。
- ④大人向けのカフェも良い。創作活動、絵本は図書館の方でしては？
- ⑤「キッズドームソライ」のような施設ができたら本当にうれしい。
- ⑥猛暑や雨の時でも思いきり体を使って遊べる室内遊び場がほしい。白石市こじゅうろうや山形のタントクルセンターのようなところ。富谷にそのようなところがない。あればもっと子育てしやすい！図書館と行き来ができれば施設の方には絵本はなくて大丈夫。安くないと通いづらい。時間制減もなしにして欲しい。ずっとこういう施設があればいいのにと考えていたのでできるのがうれしいです。期待しています。
- ⑦山形は子育てに手厚いと聞きます。参考にされればよいと思います。県外から行く方々も多いと聞きました。

3.3 アンケート調査の総評

1) 市民が日常的に利用しやすい施設を希求

市民が日常的に気兼ねなく利用できる施設であるよう、300 円程度までの低価格料金帯を望んでいる声が高い傾向が見られた。

実際、夏休みなど長期休暇中の利用希望が多かった半面、週末や放課後等の日常的利用を望む声も相当数見られ、負担の少ない形で頻繁に利用できることを望んでいる傾向と窺える。

2) 子どもたちの年齢層に応じて楽しめる施設を希求

子どもたちの各年齢層ともに「からだを動かして遊べる施設」を求めている傾向が見られたが、子どもたちそれぞれが年齢層に応じて楽しめる環境を求めている傾向が窺われた。

3) 子どもたちの年齢層が高くなるにつれ「創作活動」を求める声

子どもたちの年齢層が高くなるにつれて「創作活動」が出来る環境を求める声が高くなる傾向が窺える。

4) 保護者の方々も利用しやすい環境

子どもの各年齢層ともに「飲食できるスペース」を求める声が 10%前後を占めているとともに、子どもの年齢層が低くなるにつれ「授乳室」を求める声が高まるなど、保護者の方々の利用しやすさにも配慮が必要である。

5) 駐車場や交通渋滞への配慮が重要

来館の移動手段としては「自家用車」が圧倒的に多いため、駐車場の整備に配慮が必要であるとともに、交通渋滞対策も必要である。

4 類似先行事例の調査

事例抽出の考え方

「富谷市児童屋内遊戯施設に関するアンケート調査」の結果から見られた市民の望む傾向から、以下の視点を主眼に類似施設を抽出した。

- 1) 利用料金が「無料」から「300 円程度」で運営している屋内遊戯施設
- 2) 子どもの年齢層別に遊びのエリア分けするなどの配慮が見られる屋内遊戯施設
- 3) 保護者の方々もゆっくりできる環境整備に配慮している屋内遊戯施設
- 4) 必要に応じて視察できるよう東北管内に所在する屋内遊戯施設

分析方針

それぞれの施設の機能（整備内容）と特筆すべき特徴、及び規模、来場者数の傾向、更に整備事業費について調査し、機能性や規模感に応じてどの程度の来場者が見込まれるかを分析し、富谷市での児童屋内遊戯施設整備に向けたコンセプトづくりや導入機能、機能配置のあり方等を検討する上での参考にする。

事例の選定

上記を基に、以下の事例を選定した。

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1) こじゅうろうキッズランド | (宮城県白石市) |
| 2) ファミリーパークだて | (福島県伊達市) |
| 3) 子育て未来館げんキッズ | (山形県天童市) |
| 4) わんぱくひろばみゅうみゅう | (福島県いわき市) |
| 5) さくらんぼタントクルセンター | (山形県東根市) |

4.1 先行事例の概要

1) こじゅうろうキッズランド			
所在地	規模（延床：㎡）	事業費（千円）	来場者傾向
宮城県白石市	約 1,400 （地上 2 階）	約 390,000	10 万人/年
コンセプト・施設の特徴			
・小学生までの子供たちが年齢に応じて楽しんで学ぶことによって運動につながるよう、「わくわくパーク」「のびのびランド」「すくすくひろば」の3つのエリアを設置 ・「すくすくひろば」の隣に絵本のコーナー「よむよむひろば」も設けられ、ゆったり過ごすことができる ・大型遊具を中心とした体を使って活発に動く遊びと絵本や知育遊びなどによる子どもの創造力を育む静かな遊びが体験できる施設 ・様々なイベントの開催や、授乳室、おむつ交換室、子育てに疲れたときのリフレッシュ空間を用意するなど、子どもを連れて外出する際にやさしい施設環境			
施設概要			
【わくわくパーク】小学生中心に元気に遊べるよう大型遊具設置 【のびのびランド】幼児用のエア―遊具やボールプール等設置 【すくすくひろば】ままごとセットや電車のおもちゃなど設置 【わいわいサロン・ほっとサロン】お弁当を食べる等、交流の場として活用 【ミニステージ】大道芸やコンサートなどのイベントを開催 【よむよむひろば】選りすぐりの絵本が勢揃い			
利用料金			
・入館料＝個人 300 円、団体 240 円、障がい者 240 円 ・パスポート＝3,000 円：6 か月間有効（名前の書いてある本人のみ利用可能） ・回数券＝3,000 円：11 回分と 1 回分お得（だれでも利用可能）			

2) ファミリーパークだて			
所在地	規模（延床：㎡）	事業費（千円）	来場者傾向
福島県伊達市	約 770 （地上 1 階）	約 210,000	7.5 万人/年
コンセプト・施設の特徴			
・伊達市直営の施設で、入場料・遊具使用料・駐車場・カフェ等全て無料にて解放 ・体育館サイズのワンフロアに遊具が立ち並ぶ			
施 設 概 要			
【シンボルキャッスル】3 層構造・アスレチック系 【ソフト積木コーナー】ウレタン製遊具 【クライミングコーナー】1F 天井付近まで 【ベビーエリア】木のぬくもりで遊びと学び 【ランニングサーキット】走り回れるコースも 【室内砂場】衛生的な抗菌砂使用 【サーキット】半屋外での三輪車レース場 【ママカフェ】持ち込みも飲食も自由 【子供キッチンエリア】ママカフェに隣接			
利 用 料 金			
・全て無料			

3) 子育て未来館げんキッズ			
所在地	規模（延床：㎡）	事業費（千円）	来場者傾向
山形県天童市	約 2,226 （地上 2 階）	約 1,425,000	20 万人/年
コンセプト・施設の特徴			
・赤ちゃんから小学生まで楽しめる遊具で一杯 ・まず目を引くのは高さ 8 m の大型タワー遊具 ・リトミックやキッズダンスなどのレッスン（教室）や工作体験などのイベントも多数開催 ・親の「育児力」、親と子の「家族力」、子供の「成長力」の 4 つをアップするという基本理念に基づいて運営 ・館内は常時 15 名ほどのスタッフが見回りをしており、安心して利用することができる			
施設概要			
【ぼうけん広場】対象：6 歳から小学生まで。 タワー遊具に 2 種類のスライダー 【ゆめ広場】対象：3 歳から 5 歳まで。 ふわふわトランポリン、ビッグブロックボールプール、おもちゃコーナー 【ハイハイ広場】対象：乳幼児 ハイハイロード、えほんコーナー 【その他施設】一時預かり、授乳・オムツ替え、多目的交流エリア、子育てカフェ、研修室等			
利用料金			
・施設利用料は無料 ・レッスン・イベント参加や研修室等の利用は有料（時間帯によって料金相違）			

4) わんぱくひろばみゅうみゅう			
所在地	規模（延床：㎡）	事業費（千円）	来場者傾向
福島県いわき市	約 508 （地上 1 階）	観光物産施設内のため 不明	15 万人/年
コンセプト・施設の特徴			
・「子供たちの海」をテーマに、いわきの海・山・町などをイメージしてつくられた遊び場 ・いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・みゅう」内に設置 ・平日は 100 分入れ替え制、無料開放日や土・日・祝日・GW・夏休みは 50 分入れ替え制 ・生後 6 か月から 12 歳まで利用可 ・入場者数 23 万人を記念してリニューアルオープンし、メガ・キャッスルスPECIAL、メガ・ジオラマSPECIAL、ウレタン山等が登場			
施 設 概 要			
【アクティブゾーン】全身を思いっきり使って遊ぶ 【ロールプレイゾーン】ごっこ遊びが楽しめる 【ボールプール】幼児がリラックスして遊べる 【ベビーズーン】赤ちゃんが安心して遊べる			
利 用 料 金			
・入館料＝個人 200 円 ・1 歳未満の子・誕生日の人・障害者手帳を持っている人には全額キャッシュバック			

5) さくらんぼタントクルセンター			
所在地	規模（延床：㎡）	事業費（千円）	来場者傾向
山形県東根市	けやきホール：約 1,061 （地上 4 階） 施設全体：約 8,572	約 630,000 （けやきホール） 約 3,340,000 （施設全体）	けやきホール：16 万人/年 施設全体：35.4 万人/年
コンセプト・施設の特徴			
・子供たちから高齢者まで世代を超えた様々な人々がたくさん集まれる「生き生きと生きる」ための交流の場として整備 ・市民が満足できるような子育て支援・保健福祉の地域活動拠点 ・センター内に、赤ちゃんから大人まで楽しめる「けやきホール」を整備 ・けやきホールは 3 階まで吹き抜けになっており、中央に市のシンボルの「大けやき」をモチーフにした大型遊具を設置 ・のぼり棒や枝型の円筒スロープ、ネット遊具が連結しており、「木登り」のような感覚で遊べる ・「遊育（ゆういく：遊んで育つ）」と「共育（ともいく：共に育ちあう）」をテーマに活動しており、様々な年代の人と人とのかわりの中で、子供自らが発見して自発的に行動する（遊ぶ）ようになって欲しいという思いから、“思わず遊びたくなる”ような環境づくりに心がけている			
施設概要			
【ひがしね保育所】乳児室兼ほふく室、保育室（0～5 歳児）、一時保育室 遊戯室（1・2 階 1 か所ずつ）、食事室（3 歳児以上） 調理室、談話コーナー（園児送迎時等）、医務室・静養室 【子育て支援センター】育児相談・講座、遊戯室 【子育てサロン】情報交流、身体計測、ミニ講座） 【ファミリーサポートセンター】幼児自宅預かり 【けやきホール】大けやきモチーフの大型遊具、その他五感を刺激する遊具類 【保健福祉エリア】詳細省略 【共有エリア】ふれあいプラザ（来館者同士の情報交換交流）、大ホール（502 席の 2 層のホール） 視聴覚室、子供ギャラリー（幼児用図書・幼児プレイコーナー）			
利用料金			
・ふれあいプラザに関しては、時間帯によって 120 円～240 円の利用料金徴収			

4.2 先行事例から見る近年の施設整備の傾向

先行事例からは、近年の施設整備の方向性として以下の傾向が見受けられる。

1) あらゆる年齢層が安全で安心して楽しめる環境づくり

選定した先行事例では、規模の大小にかかわらず、あらゆる年齢層の安心安全に配慮しながら楽しめる遊び環境整備を行っている。特に注目すべきは、各施設とも明確に「乳児」と「幼児」が分離された遊び環境の提供に配慮している点が挙げられる。

2) 小学生がからだを使って遊べる施設は、「立体的」「平面的」の2つの方向性

こじゅうろうキッズランドや子育て未来館げんキッズは1階～2階の一部を吹き抜け構造にして大型の立体施設を設置し、高低差を活かした体を動かす遊びを提供している。さくらんぼタントクルセンターの場合は、3階全て吹き抜けにして大型の立体遊具を設置している。ファミリーパークだてではシンボルキャッスルやクライミングコーナーなど立体的遊具も存在するが、1階の壁面を利用した簡素なものであり、どちらかというランニングサーキットのように走り回る形態の体の動かし方を提供している。わんぱくひろばみゅうみゅうは、観光物産センターのフロアを活かした施設のため天井が低く、全体的に跳んだり跳ねたり、転がったり、走り回る形態の体の動かし方を提供している。

立体的か平面的かによって集客効果に大きな差が出る傾向は見受けられない。

3) 「ぬくもり」と「やわらかさ」を追求した遊具の選定

いずれの類似先行整備施設でも、従来のようなスチールや硬化プラスチックといった、冷たく固い素材の遊具は殆ど見受けられず、木材をはじめウレタン、ソフトビニールといった、温かく柔らかい素材の遊具を設置している傾向が見られる。柔らかい素材を更に弾力性の高いエアークラッド構造として活用している傾向も多く見られ、努めて安全性に配慮していることが窺える。

さくらんぼタントクルセンターでは、小学生が楽しむ大型立体遊具はスチールや硬化プラスチックを利用して強固な造りにしている。

4) 保護者の方々も気兼ねなくゆっくり時間を使える環境の創出

観光物産センターの1つの機能として設けられているわんぱくひろばみゅうみゅう以外の施設は、持ち込み・飲食自由のママカフェのような休憩・交流エリアを確保し、保護者もゆっくり・のんびり時間を過ごせる配慮が施されている。

規模と利用者数の相関関係についての分析

施設名称	規模 (㎡)	事業費 (千円)	来場者 (千人/年)	㎡単価 (千円/㎡)	人/規模 (人/㎡)	単価/人 (円/㎡/人)
こじゅうろうキッズランド	1,400	390,000	100	278.6	71.4	2.79
ファミリーパークだて	770	210,000	75	272.7	97.4	3.64
子育て未来館げんキッズ	2,226	1,425,000	200	640.2	89.8	3.20
わんぱくひろばみゅうみゅう	508	—	150	—	295.3	—
さくらんぼタントクルセンター	1,061	630,000	160	593.8	150.8	3.71

上記の表のように、規模の大小と利用者数の増減には明確な相関関係は見当たらない。

「施設の広さ」と「利用者数」の関係（上記表「人/規模」）に関しては、小規模な施設の方が利用効率が高い傾向が見られるが、例えば「ファミリーパークだて」は、市民向けに簡素に整備された施設である一方、「わんぱくひろばみゅうみゅう」は観光物産センターの一機能として広域利用の多い施設であり、要因としての統一傾向を見出すのは難しい。

ただし、殆どの施設がGWや夏休み期間等に限って「利用時間制限」をかけているのに対して、人気の施設「わんぱくひろばみゅうみゅう」の場合は、平日でも入替制をとっていることから、利用者の回転率が高く、単位面積当たりの利用者数が突出して高くなっていることは考えられる。

「施設のグレード」と「利用者数」の関係（上記表「単価/人」）に関しては、利用者1人当たりに対する整備単価の高い施設の方が施設利用料金を徴収していないという傾向が見られる。数値としての分析は出来ていないが、「わんぱくひろばみゅうみゅう」は合築施設の一角として整備単価が他施設より抑えられながら来場者数が多いことから、「施設のグレード」と「利用者数」の関係は、こじゅうろうキッズランドよりも更に数値が小さくなる可能性は高い。

5 児童屋内遊戯施設の整備テーマとコンセプト

5.1 整備テーマ

親子揃って誰もが楽しめる時間を提供！

テーマの設定にあたり、以下の視点を重視した。

- 1) 小学生も幼児も安全に思いっきり汗をかいて楽しめる充実した時間を提供する
- 2) 幼児も小学生もそれぞれ閃きと想像力を掻き立てられる環境を創る
- 3) 子育て世代に子育てが楽しく安らげるまちだと思ってもらえる環境を整備する

5.2 整備コンセプト

富谷市が抱える課題の解決に向け、整備テーマを具現化する整備コンセプトを SDGs の理念、及び子どもにやさしいまちづくり宣言の理念を踏まえ、他地区の事例の近年の特性等も参考にしながら、以下のように設定する。

子どもたちの発育・発達状況に応じて遊べる空間の創出

- ・ 高低差を利用して楽しむ施設
- ・ 平面的広がりを利用して楽しむ施設
- ・ 子どもたちの発育・発達状況に応じて楽しめる空間

子どもたちの想像力を養いながら遊べる環境

- ・ 想像力に任せて創作活動が楽しめる施設

保護者同士・子ども同士でゆったりと過ごせる時間の提供

- ・ 子どもも保護者もゆったりくつろげる空間
- ・ 親子でイベントなどが楽しめる空間

ウィズコロナに配慮した運営

- ・ 新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症対策に配慮

6 児童屋内遊戯施設への導入機能

整備コンセプトを受け、児童屋内遊戯施設に導入する機能を以下のように計画する。

子どもたちの発育・発達状況に応じて遊べる空間の創出		
アドベンチャー機能	立体運動遊具（児童用）	ボードクライミング・ネットクライミング・ロープクライミング等
	立体運動遊具（幼児用）	大型ソフトジャングルジム・ネットジャングル・エアスライダー等
乳児発育機能	ハイハイコーナー	乳児が自由に動き回れる空間
	おもちゃコーナー	ぬいぐるみやソフトビニールおもちゃ等
幼児発育機能	ブロックコーナー	ビッグブロック・ウレタン積木等
	絵本コーナー	読み聞かせコーナー
子どもたちの想像力を養いながら遊べる環境		
創作機能（幼児・児童）	アートコーナー	お絵描き・落書き（大型ホワイトボード）等
	モノづくりコーナー	各種素材を使った創作活動
保護者同士・子ども同士でゆったりと過ごせる時間の提供		
交流機能	ママカフェ	カフェ・持ち込みお弁当・ベビーコーナー・自販機等
イベント機能	多目的スペース	各種子育てイベント等
プライベート機能	授乳室・トイレ等	ブース型授乳室・多目的トイレ等
ウィズコロナに配慮した運営		
ソーシャルディスタンス	空間のゆとり確保	遊具をはじめとする施設のゆとり配置と順番待ちの間隔確保等
衛生環境	感染症対策	検温・マスク・消毒・換気等の責務化、飲食物持参奨励等

【 富谷市児童屋内遊戯施設整備 基本方針 】

2021（令和3）年 6 月 30 日 発行

富谷市 保健福祉部子育て支援課（複合施設整備推進プロジェクト）